

みんなが生きやすい社会へ

田原中学校 3年 恒吉唯衣

私は、「男性は仕事、女性は家事と育児」というイメージを何となくもっていました。しかし、社会科の授業を受け、このような考え方は性別役割分担につながるもので差別になると知り、驚きました。

そこで、様々な男女差別について、調べたり考えたりしてみました。思い出してみると、私は今までに「女のくせに」や「男のくせに」という言葉を耳にしたことが何度かあります。例えば、「女のくせに、なんでメイクしていないんだ。」とか、「女のくせに、料理も作れないのか。」などです。私のことをいわれたわけでもないのに、このような言葉を聞いたとき、自分まで嫌な気持ちになりました。女なら、きれいにメイクして、料理ができるのは当たり前。それが女らしい。逆に男なら、たくましく、けんかしてもめそめそ泣かない。それが男らしい。私が今まで聞いてきた「女のくせに」や「男のくせに」という言葉の裏には、こんな考え方があると思いました。でも、それは本当に正しいのでしょうか。私の通う中学校では、体育や技術家庭科の授業を男女一緒にやっています。全体的に見れば、力を使うことは男子の方が、そして、裁縫や調理など細かいことは女子の方が得意です。しかし、男子の中には、女子がびっくりするほど裁縫や調理が上手な子もいます。反対に、女子の中にも、男子に負けない速さで走ったり、機械いじりが得意だったりする子もいるわけです。このような現実を見れば、差別的な言葉を使って分ける必要なんて、全くないと思います。

さて、平成十一年六月に男女共同参画社会基本法が制定されました。この法律は、性別にかかわらず個性と能力を發揮できる男女共同参画社会の実現を目指そうとして作られたものです。それから二十年あまり経ちました。果たして、その法律が目指す社会は実現できたのでしょうか。残念ながら、それにはほど遠いと私は思っています。なぜなら、職場における給料や昇進、セクシャルハラスメントなど、女性が不利な立場に置かれている例を挙げればきりがありません。でも、あきらめるわけにはいきません。少なくとも、「男女差別はいけないことだ。」「法律に基づき、私たちの目指す社会は男女共同参画社会だ。」という道筋はできています。後は、それに向かって私たち一人一人が努力するだけです。中学生のわたしにもできる努力は何かと考えたとき、まず、男女差別につながる発言はしない。次に、男女を問わず仲良くする。そして、男女差別や男女共同参画社会について、本や新聞などを読んで、もっともっと詳しくなることが大切だと思いました。

男女共同参画社会が実現し、女性が生きやすくなれば、男性も、生きやすくなると私は信じています。そんな、みんなが生きやすい社会をこれから作っていきたいです。